

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー 千田クラス		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

春学期間、ファーストイヤーセミナーの千田先生のクラスを担当させていただいた。このクラスでは、個人でレポートの作成とその発表が主に行われた。まず、個々が問題意識を持っていることからテーマを定め、そのテーマに沿ったキーワード、調べるための指針をレポートしてきたものを発表した(①)。さらに次の段階として、個人で作成・発表したレポートを、先生、チューター、生徒の意見を参考にしより深めたもの(1000字、A4 1枚程度、参考文献2冊以上が条件)を発表した(②)。

①では、1人の発表に対して、特に、共通する問題意識を持っている2~3人の生徒を先生が指名し、助言や感想を発言、次に、先生からのコメントがあった。②では、一人の発表に対して6~8人程が意見を挙手制で発表した。始めの方は、大学での勉強が始まって間もなく、自ら発言することが難しいため、先生の指名による発言が行われた。しかし、徐々にではあったものの、全員が自ら手を挙げて発言できるようになったことは、大きな成長であると思う。また、始めはレポートの書き方が分からないこともあって、発言が難しかったようであるが、レポートを重ねるにつれ、他者のレポートをどのような視点で見、評価し、発言をすればよいか分かってきたようである。最後のレポートでは、多くの方がしっかりと文章構成を展開しており、接続詞を使って上手に段落分けできていた。また、見出しもうまく使うことができていた。レポート作成の基礎として、大変有意義な授業であったと思う。

レポートの書き方だけでなく、友達がどのようなことに関心や問題意識があるのか、ということが知ることができたのも、このクラスの特徴であったと思われる。問題意識を抱く事柄は、本当に人それぞれであり、聞いたことがあったり、自分に興味のあるテーマもあったが、聞いたことのないようなテーマを設定している人もいた。私自身、視野を広げることができた。また、まだまだ知らないことがたくさんあり、勉強不足であると感じたので、今後一層努力していきたいという気持ちを持つことができた。私にとって大きな成長であり、このような体験をさせていただき、大変感謝している。

<今後のチューターまたは先生への提案>

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー 産業関係学科		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

チューターをするにあたって最初は不安が大きくて、果たして仕事をちゃんと果たせるのだろうかとおもい巡らせていました。自分に自信がないということが要因でありました。

チューターをさせて頂いた産業関係学科 FYS の阿形先生のクラスは私を含め 3 人のチューターが担当しました。一人ではないことに心強かったです。

仕事内容を振り返ると、図書の検索方法や CiNii を使った論文、雑誌の検索方法のアドバイスをを行いました。またレポートの書き方について、上回生の立場から 1 回生に伝えることができました。レポートと感想文のちがいについて理解して頂けたと思います。レポートとは根拠にもとづいて主張を述べるものであり、自分の考えなどが求められます。レポートの正しい書き方を 1 回生のうちからしっかり身につけることは非常にのちのち役に立つので忘れないでほしいです。また私が 1 回生の時はレポートの書き方の授業はなかったのですごくうらやましかったです。そしてレポートを書くにあたって忘れてはならない、引用の仕方・表記方法なども一緒にみていきました。

そしてグループワークとして KJ 法についてチューターが 1 回生のグループに交じって参加しました。KJ 法とはあらゆる雑多な概念を論理的にまとめて図式化する手法であります。テーマはもし宝くじで 3 億円あたったらどうするか? という事象について KJ 法を行いました。これまではなんとなく固かった表情でしたが、グループワークを通して受講生の笑顔が見られるのはチューターにとっても嬉しいことでした。

全体講義を挟み、口頭発表の仕方について学びました。口頭発表とは紙媒体で伝えるのではなく人媒体で伝えるので大きな声ではきはきと話すことや分かりやすく説得的に話すことや聞き手の立場にもなることがスキルとしても求められるのでレポートとはちがった難しさがあったと思います。グループに分かれて、各グループ 2 回ずつおこなって頂きましたが、ほとんどの班が 1 回目より 2 回目のほうが上達していました。そしてグループ単位でおこなっているのでグループのチームワークの大切さも伝えました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

初めてのチューターでしたが、私自身、初心に戻ることができ非常に良い経験をさせていただきました。チューターとして至らぬ点も多くまだまだ不完全ではありましたが、同じ学生の立場からアドバイスしたことが少しでも伝わったのであれば幸いです。また自分自身も 1 回生から学ぶべき点は多く、初心に戻って頑張ろうと思いました。今後の生活においても、こうしたチューターの経験も十分に生かしていけたらいいなあと思いました。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー富田クラス		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

今回は人数が15人の小クラスを担当しました。前半の4回では、1回は図書館講習に参加し、後の3回で『ベーシックインカム入門』（山森亮）という新書を読みました。受講生は各章について、毎回要約を提出していました。授業では3グループに分かれて、それぞれ先生から提示された立場で討論が行えるように、資料を集めたり、考えを話し合っただけでまとめたりしてしていました。チューターは図書館やインターネットで文献や資料を集めるやり方などをアドバイスしました。また今回は討論を行うところまではいかなかったのですが、討論に向けての準備でしておかなければならないことなどを話しました。受講生には授業を踏まえて2000字レポートの課題が出ました。

後半の5回では、3つの新聞記事を読み、3つのグループに分かれてその主張について分かりやすく説明するプレゼンを行いました。新聞記事で述べられている主張は簡潔で、その問題の背景や主張の根拠などが分からないので、それらを調べてパワーポイントにまとめました。資料集めは前半までできるようになっていたため、グループ発表を行うまでの進め方などをアドバイスしました。またパワーポイントでの発表も始めてだったようなので、スライドの作り方や発表の仕方について話しました。途中1回は、前半の最後で書いたレポートをみんなで読みあい、レポートの書き方について話し合いました。

前半の授業ではチューターとして受講生にしてあげられることがなかなか思いつかず、うまく受講生と接することができなかつたと思います。最初は受講生も分からないことだらけだと思うので、この授業のことだけでなく、同学科の先輩だからこそのほかの授業の話や、大学全般の話など、もっと気軽にはなざればよかったかなと感じます。後半では課題が最後に発表する形式だったので受講生も力を入れて授業に臨んでいたのではないかと思います。チューターもパワーポイントの作り方や、レポートの形式など具体的なアドバイスをすることができたのでよかったです。特に、産業関係学科はレポートがとにかく多いので、早めにきっちりとした形式を覚えて毎回きちんと書けるようになってくれれば良いと思います。

<今後のチューターまたは先生への提案>

チューターは今回で2年目だったのですが、去年よりはしっかりとしたアドバイスができたのではないかと考えています。やはりアドバイスは具体的に話すのがいいのではないかと考えています。特にFYSの場合受講生はほとんどが1回生で、学科の専門的な話もレポートもパワーポイントもほとんど初めての人ばかりです。授業以外のことでもいいからなるべく受講生とたくさん話し、なんでも気軽に質問できる雰囲気作りが重要だと思いました。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	一回生 FYS (三山先生クラス)		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

今学期初めて、チューターをやらせていただきました。私は今までの授業でチューターの方と関わったことはなく、自分がチューターをやるなんて思ってもいなかったのですが、三山先生の勧めで今回の一回生ファーストイヤーセミナーに就くことになりました。最初は授業でどのように一回生に接してよいものかわからず、教えるためにはまず自分が理解していないと、と前もって教材を読んで自分なりに考えや意見をまとめたりしましたが、自分の見解が正しいのか、何を話していいのか、どんな風にサポートすればよいのかわからず少し不安でした。しかし、担当の先生から「なんでも良いです。ただ自分の意見をあげて、そう思った理由をきちんとと言えるようになって下さい」と言っていたき、ふっと肩の荷が降りました。

私の担当クラスには他にチューターが2人いて、授業内容は3人で三つの1回生グループにわかれて、授業ごとのテーマにもとづいてディスカッションを行い、最後にグループで意見をまとめて代表者が発表するというものでした。1回生にとっては、グループディスカッション自体初めてという生徒が多かったので、まず話しやすい雰囲気づくりからはじめました。チューターとして、自分がなぜここにいるのか、何を勉強しているのか、自己紹介をふまえて話し始めました。中には私のように、2、3回生になったらチューターをやりたい興味を持った1回生もいたようです。

回を重ねるごとに1回生との仲も深まり、授業とは直接関係ない話に発展してしまうことも時々ありました。たとえば、親が共働きの高校生の不登校の問題から将来の結婚相手に求めるものは何か、というように。そんな時も担当の先生が「自分で考えるということの方が大切」ということを教えていただき、私自身、興味がないテーマでも自分が興味のあることから、どのように工夫して逆流させて考えるかということを学習しました。

チューターをやろうと思ったきっかけは自分が興味のあまり無い範囲や知らない問題に対して触れるきっかけになり、自分自身が学びながら、1回生をサポートできる良い機会だと思ったからです。実際、授業では今まで深く考えたことのないテーマを取り上げることもありましたが、そんな時は1回生の方がそのような問題に対して、現実的だったり、純粋なので、私が考えもしなかったような発言に対して驚くこともありました。対等な立場で、少しだけ多く経験している話をわかりやすく、興味を持ってもらえるように伝えられるかどうかをチューター中には考えていたように思います。3回生だから学習内容も難しいので簡単なことは教えられる、だからチューターでサポートをするという当初の考え方から、チューターが終わるころには、私の考えも1回生との関係も大きく変化していました。チューターを通して、自分自身も同時に成長できたことを本当に喜ばしく思っております。

最後になりますが、チューター業務について、サポートしてくださった山木さん、チューターを勧めて下さった担当教授の三山先生に感謝致します。

春学期間、ありがとうございました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

機会があれば、またチューターをやらせておたいたきたいと思っております。  
よろしく願います。

## 2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー 三山クラス		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

春学期の仕事は、教科書をあらかじめ読んだ上で授業時に行うディスカッションに参加し、意見を出しやすいように発言することや1回生の疑問に答えること、発言のまとめの補助をすることでした。後半の2回については新聞記事をその場で読んだ上でのディスカッションだったため、時間配分も仕事でした。

これらの仕事を通じて、1回生は教科書を使ったディスカッションでは発言を促すと意見を出すことができること、論点が分かりにくい場合は身近な話題につなげると活発に意見が出るようになりました。また、学生によって選択している授業の関係もあり、共通の知識がない部分では内容理解が十分にできないことがあるということが分かりました。そのため、ディスカッション時は論点の趣旨が理解できているかを確認し、全員が意見を言えるように気を配りました。また、論点の趣旨の理解ができていない場合は身近な話題や1回生が持っている知識に関連させて解説するように心がけました。

チューターを勤めさせていただいたことで、私自身が下の学年と関わる機会がなかったこともあり、1回生が何を考えているのか、どんな生活感覚なのかを知ることができ、非常に興味深かったです。学生の補助を通じて、自身の問題の捉え方と違った新たな視点を得ることができ、かつ、自分の知識がどの程度のものなのか確認をすることもできました。また、現時点でどんな能力を身につけることが1回生に求められているのかを把握し、その能力を身につけるためにどのように指導すべきか考えることができました。そこで、自分が能力をどのように身に付けてきたのか改めて振り返ることになり、成長を実感することができました。

このチューター業務を通じて、自分を反省する機会に恵まれ、成長することができたように思います。貴重な経験ができたことは非常に有意義でした。このような機会を与えてくださり、指導して下さった三山先生に感謝します。ありがとうございました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

1回生には基礎知識がない状態での議論が求められるため、知識の補助が必要であると感じました。そこで、春学期を通じて同じ題材を扱うのであれば授業において基礎知識を身につける機会を設けることで、共通知識を形成することができ、議論が円滑に進むのではないかと思います。また、産業関係学が扱うことがなんであるかがとらえきれていないため、身近な話題が産業関係学とどう関連しているのか考える機会を持つのも良いのではないかと思います。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

わたしは大学に入学したばかりの一回生の授業を担当させていただきました。授業の受講生の姿を見ていると、わたしも入学当初こうだったな、と懐かしく思うことが多々ありました。

わたしが一回生だった際と同様に、一回生の多くは初め、授業に一生懸命参加することを何か格好悪いことのように感じています。特にわたしの学年では、チューターの方がおられなかったため、その傾向が長く続いていたように思います。

しかしそのような姿勢では、もしかするといつか、後悔することがあるかもしれません。もちろん大学生活というものは、サークル活動やアルバイトなど、様々なことが出来ますので、それでも良いと思う方も多くいると思います。しかしせっかく入った大学なのですから、わたしは学びたいものを一回生に何か見つけてもらいたいと考えていました。せめて大学の授業を少しでも楽しいと感じてもらえたら、ということも授業でも意識していました。そこで、先生という立場とは違ったチューターの立場から、アプローチ出来ることは何か、そう考えました。しかし実際、意欲が低い受講生に、授業を興味深いと思ってもらえるようにすることは、先生も悩まれていたようですが難しかったです。

又わたしは最初、チューターの役割として、授業中に意欲の低い受講生に対して先生が強く指摘した際、わたしが柔らかくフォローする形式を想定していたのですが、これは全く出来ていませんでした。むしろこの形とは逆になってしまい、グループ発表の質問の時間では、一回生に対して厳しい批判をしてしまいました。しかしそのあと阿形先生がわたしの発言をふまえ、次回に繋がるフォローをしてくださり、結果としては良かったのですが、批判の仕方についてはこのチューターの授業で悩んだ課題です。わたしが昨年受講していた授業では、チューターの方が優しくも厳しい批判をしてくださったおかげで、随分考える力が身に着いたような気がします。強く批判することはこちらとしても勇気があることです。相手の意見・考えをどう理解し、適切な批判が出来るか、これはこれからの課題であるように感じております。

<今後のチューターまたは先生への提案>

基本的に同志社大学の学生の方々は真面目な方が多いと思うので、大学の授業は「ちゃんとやらないと格好悪い」、「一生懸命出来る方が格好良い」という雰囲気さえ作れば、授業はもっと良いものになると思います。チューターは先生方に比べ、受講生と歳が近い分、大学の授業における取り組み方を伝えやすいと思うので、そのことを意識するとよりよい授業が出来ていくのではないかと感じました。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー④		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

半期を通して、1回生には大学が今までの勉強してきた環境とはまた違った教育機関であると分かってもらえたと思う。また担当したファーストイヤーセミナーのクラスでは少なくとも、社会に溢れる情報の中に埋もれてしまうのではなく、疑問を持ってそれを調査し解決しようとしていく能力が大切だというメッセージを伝えられたと思う。

1回生にとって上級生のチューターという立場の学生からのコメントは興味深く、聞きやすいことだと毎回の講義で感じました。下級生の期待に応えようとチューターなりの意見を、言葉を選んで話すように心掛けました。このような機会は初めてで、初めはうまく伝えることが出来ずに難しさをしばしば感じていましたが、最終的にはこのことにも慣れ、下級生とも授業時間以外に学校内で会うと挨拶や会話を交わすようになりました。サークルや部活以外での縦のつながりが出来たと思います。また、私が1回生の頃にもこんな制度があれば、私の学生生活は少し違ったものになっていたかもしれないと思いました。

下級生にアドバイスをする難しさや、議論を円滑に進めるためのヒントの出し方やそのタイミングの難しさを知ることが出来、チューターとしてこのプログラムに参加してよかったと思いました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

チューターは議論に参加するような形式が好ましいと思いました。また、先生はチューターをうまく活用しながら1回生が授業に参加しやすい雰囲気を作っていけば効果が上がるのではないかと思います。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

千田先生のファーストイヤーセミナーでは、自分が興味を持ったテーマを学期の前半で問題意識・キーワード・調べるための指針の三点をレジュメにまとめ発表し、後半で約 1000 字のレポートにまとめ発表するという内容でした。クラス全体に意見を求め、同じ時代を過ごす人々が何を考えているのかを肌で感じる事を望まれています。またこの授業を通じて大学生活に必要な論文の書き方を学んでいくことが出来ると思います。チューターの仕事は授業の中で意見・助言を求められることと、一回生が疑問や聞きたい事があった場合に相談しやすい環境を整えることが仕事でした。千田先生のクラスでは一回生に意見を求め、チューターは補助の役割の要素が強かったですが、何か意見を求められたりしたときにはきちんとそれに応えるように心がけていました。

チューターをしていると客観的に授業を見る事ができました。普段の授業は自分が受講生ですが、客観的な立場で受けると一回生が意見した内容に対して、先生がその人の言いたい事、言い足りない所、抽象的な意見を具体化していく所など生徒の事を見抜いて意見や助言をしているのを感じました。そして自分が一回生の時の事を思い返し比較をし、あのときと比べて成長できているのか、またこの視点・助言は卒論にも活かしていきたいなど感じることも多くありました。

基本的に千田先生が司会を行い、進めていく授業だったので自ら発言を求められ、参加するという雰囲気ではありませんでした。しかしあるテーマの際に就職活動の話をしたときの一回生の話の聴き方には驚きました。まだ一回生であるにも関わらず、「就活は厳しい」という情報に影響されていると感じました。そういった情報だけでなく、同じ学部学科で学んだ先輩と後輩が交流し、大学生活・就職活動を経験した生の声を聞ける場があるというのはいいことなのではないかと思います。しかし聞きたい事があっても大学生になりたてで、授業では同回生との人間関係を構築する方が一回生の春学期は優先されている気もしました。

私がチューターをして一回生に良い意見や助言が出来たのかは解りませんが、私は良い経験をさせていただき、授業に対して新たな視点や卒論に対しての意見を持つ事が出来たので有意義な時間を過ごす事ができました。ありがとうございました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

チューターは先生の指示に従いながらも、きちんと自分のポジションを自覚し、意見を言う際も客観的な視点を持って授業に参加する姿勢が大事だと思います。先生に対しては、1 回生に意見を求めるのは当然ですが、もう少しチューターが意見する場を設けて欲しいと思います。



2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー三山クラス		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

授業は、「進学格差」という本を一章ずつ読んで、担当グループがレジュメにまとめて発表するという形式で行われました。本を読んでいると、「何で？」とふと疑問に思ったり、「著者のこの意見に私は賛成できない」といった感想を多くの人が持ちます。担当グループは章の内容に関する疑問点や意見を発表の最後に言います。その疑問点や意見を論点として、三つのグループに分かれて議論しました。「奨学金制度をもっと充実させるにはどうしたらいいか」や、「格差を少しでも是正するために政府は何をするべきか」、「義務教育を高校まで拡張すべきか」などの論点が実際に学生から挙げられました。どの章も「格差」に関連した内容に触れていたため、議論が前回授業とほとんど同じということもありました。チューターをやっているこの点が非常に困りました。「論点と全く異なる議論をしてもいけない、だからといって前回と同じ内容で議論しては学生があきる」という狭間で授業を進めた時もありました。

授業を重ねるにつれて、論点はより内容の濃いものとなっていきました。「学生の格差に関する認識や知識が変わってきたな」と感じるようにもなりました。例えば多くの学生が授業の最初から、「格差は良くない」と感じていました。しかし、「なぜ？」と聞き返すと「格差は不平等」だからと答え「何が不平等なのか」と問うと、答えに息詰まるケースが非常に多かったです。最後の授業の方になると、「格差は良くない。なぜなら今の日本では、機械の不平等が存在するから。格差は親から子へと再生産される。誰もが同じ条件で競争した結果の格差なら少しは容認できるが、誰の親に生まれたかで与えられる環境や機械が異なった結果、生じる格差は容認できない」と説得的に自分の意見を主張することができるようになりました。「本当に授業の最初と最後では、知識や主張の仕方が全く違うな」と感心しました。ディスカッションを通して様々な学生の意見に触れた結果、私の考え方も広がりました。チューターをしながら良い勉強をすることができて良かったです。

<今後のチューターまたは先生への提案>

「自分の意見を説得的に相手に伝える」ことは非常に難しいことです。しかし、誰でも練習すればできるようになります。この能力は社会に出る時にも必要とされます。「一回生からディスカッションをやっておけば、就職活動や実際に社会に出る時に苦労なくて済む」と私は思います。今のディスカッション形式の授業を続けるべきだと私は考えます。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー 富田クラス		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

今回、私は初めてチューターという仕事をさせてもらいました。仕事内容としては、主に受講生がわからないことをアドバイスするという感じでした。前半の講義ではチューターも受講生と一緒にベーシックインカムについて富田先生の説明を聴きました。ここで気付いたことは、チューターも受講生と同じようにただ先生の講義を聴いているのではなく、受講生の質問に答えられるぐらいに理解を深める必要があるということです。後半の講義では3つのグループに分かれ、最終の個別クラスでの発表の準備のサポートをしました。ここで気付いたことは、5人程度の少人数のグループでしたが、その全員で力を合わせて発表の準備をしてもらおうと思っても一部の人だけが熱心に取り組み、なかなか全員が参加してくれず、それをまとめるのがとても難しかったということです。また、このグループ発表のサポートによって受講生と関わる機会を多く持つことができ、いろんな議論ができたので自分自身も楽しかったです。その他にレポート添削などもしました。ここで気付いたことは、一回生が予想以上にレポートの書き方を知らなかったということです。自分の一回生のときも同じような感じだったのかなと思うと、大学に入っていい勉強になっているなと思いました。また、自分以外のレポートを読むことは初めてだったので、自分にとっても良い刺激となりました。レポート添削をした後、受講生に直接レポートに対してのアドバイスを講義の時間を取ってもらえたので、そこで受講生も学んでくれていたらいいなと思います。

全体を通して、一番に人に何かを教えるということは難しいと思いました。自分の知識に自信が持てないときちゃんと人に教えるということはできないと思うので、講義をしてくれている先生を尊敬しました。これを機にいろいろなことに対して、知識を深め、人に教えるということが上手な人になりたいと思います。チューターをさせてもらって、先生や受講生のサポートをうまくできたかはわかりませんが、本当に貴重な体験ができたと思うので機会があればもう一度やりたいです。

<今後のチューターまたは先生への提案>

私は今回チューターをすることが初めてだったので、最初はあまり積極的に受講生にアドバイスなどできませんでした。そこで、今後のチューターへの提案としては、最初から積極的に受講生にアドバイスしてもらいたいと思います。

先生への提案は、メールで直接させていただきました。

## 2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー（森山クラス・金曜三限）		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

最初は、森山先生の指示に従いながら授業補佐をしていました。中盤から、レポート発表・プレゼンテーションが始まり、チューターとして助言を求められる場面もありました。

チューターは言ってみれば、ごく最近その授業を履修し終わった上回生です。ですから、後輩より少し先を進んでいるものの、大学の先生方や院生の先輩達から見れば僕らチューターも 1 回生もあまり違いはないかもしれません。ただ、自分がチューター業務の中で気づいたことは 1 年前にはモヤモヤしていたものがあり、そのモヤモヤを消すために何が必要なのかを 1 回生と一緒に考えられたことです。

モヤモヤの中身は色々ありますが、例えば今やっていることがどのように将来に繋がるのかといった漠然としたものです。2 回生になってもはっきり即答はできませんが、大学での学び一つ一つが社会人になる第一歩だということはわかるようになりました。それをどう 1 回生に伝えればいだろうかと考えているうちに自分自身も他人に物事を伝える力を鍛えられています。

今後も機会があれば、チューターとして先輩や後輩達との交流をもちたいです。この半年で、森山先生と授業の前後に色々お話ができたのもうれしかったです。ありがとうございました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

僕の担当だった森山クラスはチューターが一人だったので、もう一人以上欲しいです。

2010 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	産業関係	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

春学期のファーストイヤーセミナーでのチューター業務の経験は、私にとってとても有意義なものであった。業務の内容として行ったものは、質疑応答の補助である。講義の内容は、一年生の一人が発表した事柄に対してクラス内で質疑応答を行うといった内容であった。前半は参考文献リストの使い方、後半はパワーポイントを使つての発表を行った。一年生は中々自分から進んで意見を述べたり、疑問を投げかけることをせず、質疑応答が滞りがちになることが多々あった。その時に先生から話を振られ、質疑を投げかけ、クラス運営をスムーズにするということが春学期を通して私の仕事であった。

この仕事を引き受けて、一番興味深かったことが、様々な人の考えを聞けるということである。普段自分が所属しているゼミ以外で、人の発表に対して質疑応答を行うということは中々経験できることではない。その経験をチューターを通してすることができたということは、かなり有意義であったのではないかと感じている。中でも、自分とは世代の違う人の意見は新鮮で、興味深いものであった。自分が気付かなかつたことや、思いもよらなかつた意見や発表内容を聞くことは面白く、勉強になり、自分の視野を広げることができたように思う。

チューター業務で私が一番気がかりであつたことは、自分の意見が的を得たものであつたかどうかである。いうまでもないことであるが、私は授業の補助で入っているクラスの学生よりも学年が上である。そういった中で、自分の発言が適切であるかどうかということは自分の中で最も気を使つていたことであり、不安であつたことである。実際、後で思い返して、自分の意見がまとめ切れてなかつたり、見落としていたことがあつたりし、反省するべき点が多々残つてしまつた。

チューター業務は、初めてのことで勝手がわからず、戸惑うことも多かつたが、興味深く大変有意義なものであつた。他人の意見を聞き、自分の意見を発表する場などそうそうなく、学生の間にいい経験ができたと思う、又機会があれば、やってみたいと思う。

<今後のチューターまたは先生への提案>